

吹田市商工業振興対策協議会 議事録

- 1 開催日 平成 31 年 4 月 22 日 (月)
- 2 開催場所 吹田市文化会館 メイシアター 3 階 第一会議室
- 3 開催時間 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分
- 4 出席委員 佐竹委員、井上委員、石川委員、好見委員、橋本委員、浦部委員、村口委員、福家委員、平岡委員、細見委員
- 5 欠席委員 山口委員、田中委員、森田委員
- 6 出席職員 井田部長、奥山次長、大音参事、神堀主幹、山中主任、渡辺係員、西村係員
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴者 1 名
- 9 配付資料 (事前送付)
 - (1) 次第
 - (2) 資料集
 - 資料番号 1 平成 31 年度 (2019 年度) 都市魅力部地域経済振興室組織体制
 - 資料番号 2 平成 28 年度 (2016 年度) ~ 平成 30 年度 (2018 年度) 吹田市商工関係事業別予算・決算額の対比及び平成 31 年度 (2019 年度) 吹田市商工関係事業別予算
 - 資料番号 3 平成 30 年度 (2018 年度) 企業訪問の実施状況
 - 資料番号 4 吹田市プレミアム付商品券事業
 - 資料番号 5 吹田市商工振興ビジョン 2025 取組経過
 - 資料番号 6 吹田市商工振興ビジョン 2025 検証シート

10 会議内容 (発言要旨)

< 案件 (1) 平成 28 年度 (2016 年度) ~ 平成 30 年度 (2018 年度) 吹田市商工関係事業別予算・決算額の対比及び平成 31 年度 (2019 年度) 吹田市商工関係事業別予算について >

事務局側から資料説明の後、次の意見、質疑があった。

(委員) 開業支援利子補給金の予算が使い切られていないのは何故か。

(事務局) 融資開始から1年経過した方を対象に金融機関より開業支援利子補給金の案内を通知しているが、活用実績が少ない。他市は実績が多いため、それらを参考にして実績を上げていきたいと考えている。

(委員) 融資担当の非常勤職員報酬の予算が余っているのは何故か。

(事務局) 当該非常勤職員が徒歩通勤のため交通費分の予算が余っている。

(委員) 開業支援利子補給金と関連して、大阪府の制度融資の使いやすさについてどのような声を聞いているか。

(事務局) 金融機関全般の利子が安い傾向にあり、直接金融機関に借りに行かれる方も多いと聞いている。

(委員) 企業立地促進奨励金の活用状況について知りたい。

(事務局) 平成30年度は4件交付し、3件認定したことにより、令和元年度は7件交付予定である。

(委員) 平成29年度から増えてきているということか。

(事務局) その通りである。企業訪問等で周知を進めているため徐々に増えている。

(委員) 地元雇用促進補助金、地元企業発注促進補助金の予算が減っているのは何故か。

(事務局) それら2つは事業認定から3年経過後に一定期間、雇用や発注を行っている事業者に対して補助金が交付されるものであるが、平成30年度には該当する事業者が無かったためである。

(委員) 今後は対象事業者が増えるということか。

(事務局) その可能性はある。

(委員) 地元企業等共同研究開発事業補助金について、国が共同研究開発をする大企業に対して実施予定の減税措置とは関係がないのか。

(事務局) 本市の制度は中小企業を対象としたものであるため、国の施策とは関係のないものである。

(委員) 地元企業等共同研究開発事業補助金について、補助対象となる中小企業の根拠(定義)は何か。

(事務局) 中小企業基本法に定める中小企業の定義による。

(委員) 地元企業等共同研究開発事業補助金は市独自の施策か。

(事務局) その通り。

(委員) 開業支援助子補給金の予算が増額しているが、件数としてはどの程度の変更があったのか。昨年度からの実績を知りたい。

(事務局) 詳細資料がないので具体的には不明であるが、融資の件数や融資額が増加することによって開業支援助子補給金の予算が増額している。

(委員) 融資先は把握しているのか。

(事務局) 融資先は金融機関から聞き取ることができない。

(委員) 開業支援助子補給金の平成30年度決算額27万円は少なく感じる。交付金額が少なく面倒に思う方もいるのかもしれないが、予算があるのに交付できていないのはもったいない。

(事務局) 融資開始から1年経過した方には金融機関より開業支援助子補給金の案内を通知しているが全ての中小企業者の活用には至っていない。

(委員) 中小企業では担保するものが無い等の事情によって融資を受けることが難しい状況があり、通常であれば1%程度の利子で済むところが、5%を超えるような融資を受けざるを得ないことも理解したうえで、制度融資が円滑に実施されるよう取り組んでほしい。

<案件(2)平成30年度(2018年度)企業訪問の実施状況について>

事務局側から資料説明の後、次の意見、質疑があった。

(委員) 企業情報をデータベース化し、事業者からも閲覧できるようにしてほしい。

(事務局) ものづくり中小企業と資料番号3の内容については、市のホームページに掲載しているが、それ以上の情報公開については現在検討中である。

(会長) 事業者によっては、市に対して話している内容もあると思われるので、ホームページにそれらを掲載するとなると拒否する事業者もいる可能性もあり、今後の検討課題としてほしい。

(委員) 企業訪問件数については年1,000件を目指してほしい。また小さな会社も回ってほしい。

(会長) 今後企業訪問を行うに当たり、見本となるような先進的な企業を訪問するか若しくは困っている会社を訪問するか検討してほしい。

<案件 (3) 吹田市プレミアム付商品券事業について>

事務局側から資料説明の後、次の意見、質疑があった。

(会長) 消費税が増税しない場合はどうなるのか。国の事業ならば国が方針を決定するのか。

(事務局) その通りである。

(委員) 低所得者、子育て世代のみ対象となっているが、市独自で改善することはできないのか。

(事務局) 内容についてはほぼ国から示されているものと同様である。独自に商品券事業を行っている市町村であればその事業と重複して行うことができるが、吹田市は国からの補助金を使用し持出し無しで行う。

<案件 (4) 吹田市商工振興ビジョン 2025 検証シートの期末報告について>

(委員) ホームページ作成事業補助金についてはより周知を進め、応募件数を増やしてほしい。補助対象拡大の要望が多いということだが、何社程度から要望があったのか。また多くの要望があるのにもかかわらず対象が拡大されないのは何故か。

(事務局) 具体的な件数は数えていないが、企業訪問の中では 10 社～20 社のうち 1 社程度からそういった要望を聞いている。元々ホームページを有していない事業者が販路開拓のために新たにホームページを作ることを支援する補助金であり、当初の趣旨と少し異なる変更となるとハードルが高い。まずは、募集時期や条件等、地域経済振興室の判断で改善できることから始めている状況である。

(委員) もしリニューアルが対象になれば、予算も増額となるのか。

(事務局) その点については具体化されてからの検討になる。

(委員) 定期的にビジョンの経過報告があると制度に対する理解が深まる。また、創業促進に関しては、地域の中でもすいた創業支援ネットワークがベンチマークとなっているため、チャレンジショップやインキュベーション施設のように吹田市ならではのシナジーをもう少し発揮してほしい。

(委員) 展示会等出展事業補助金について対象となる展示会開催時期が 7 月からとなっているが、4 月～6 月の期間もどうにかして対象となるようにはできないのか。

(事務局) 他市の事例を参考に検討する。

(委員) ホームページ作成事業補助金について、市内業者に依頼することが要件となっているが、依頼するには打合せや見積書の提示が必要であることを考えると、現在の制度では使用しにくい。打合せの場やプレゼンテーション等を聞く機会を設けてほしい。

(委員) 補助金全般についてより周知を図ってほしい。また、補助金が交付されるまでの期間中の運転資金として融資との連携を行ってほしい。

(委員) J R吹田駅周辺エリアだけでなく、J R吹田駅北側やその他の商店街には資料番号6 p11 (1)、(3) のようなまちづくり、組織づくりの支援施策は検討していないのか。

(事務局) 補助金等の活用はJ R吹田駅周辺の商店街が多い。逆に千里ニュータウンの商店街だと店舗はそれほど減ってはいないが補助金の活用は少ない。各商店街から聞き取りを行い、どのようなことができるのか検討していく必要があると考えている。また、J R吹田駅北側のエリアについては、昨年度に商店街等魅力向上促進事業補助金を1件活用した事例があったが、それには、以前から東片山商店街と協力して様々な事業や会議を行っているという経過がある。今後も各商店街と意見交換を重ね、それぞれの店舗の直接的な集客につながるよう検討していく。

(委員) 商店街にシャッターが閉まっている店舗が多いが、出店の問い合わせも多い。

(会長) どの市町でも問題になっている事例で、固定資産税を上げる等の対策をしているところもある。店舗を活用するか、活用しないのであれば持ち主を変えるということを政策的に促したほうがよい。

(委員) 制度が事業者伝わっていないことが補助金活用等の少ない原因であると考えられるため、各経済団体との連携が必要なのではないか。また、メールマガジンも業種別、創業年数別にカテゴリーを分け、その事業者に必要な情報を送付したほうが相手方に伝わりやすい。今後はアプリ等を使用した情報発信をしていくことも必要になっていくのではないかと思う。

(会長) すべての事業者に情報を周知徹底することは不可能。問題意識を持って情報を取得しに来た事業者が確実に情報を得られるような環境で情報発信していくことが大事。

(委員) 消費者の立場からすると吹田市は駅が多いが活気のある駅が少ない。もう少し消費者の意見を取り入れる場を設けてはどうか。活気のある商店が多ければ、地域の安全にもつながるのではないか。

(会長) 南吹田駅周辺の開発は進んでいるのか。

(事務局) 今のところ店舗は少ない。駅は完成したが、用途地域は変更されていない。

(委員) ホームページ補助金について、申請しても採択されないだろうと最初から諦めてしまっている事業者も多いと思う。

(副会長) 多様な事業があるが、現在の人員ですべての事業に力を入れるのは大変だと思うので、優先順位をつけて取り組んでほしい。

(事務局) 人員配置についても効率的に行いたいと考えている。

<その他について>

事務局側から、次回開催日程が 8月8日(木)となる旨の連絡があった。